

令和8年3月19日

学校評価特集号

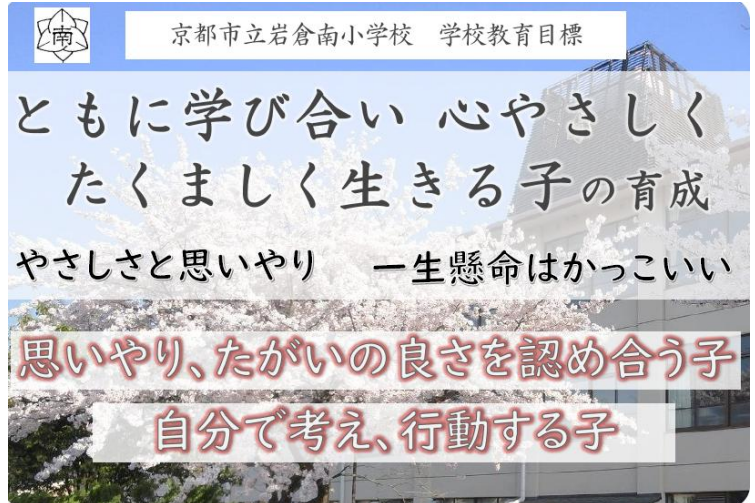
後期

～ 振り返りを次年度へ～

京都市立岩倉南小学校
校長 石田和三

平素より、本校の教育活動に多大なご理解・ご協力をいただき、ありがとうございます。

日々の教育活動を進めるに当たっては常に、『思いやり、たがいの良さを認め合う子』『自分で考え行動する子』の育成というめざす子ども像に向かっているか、「目標達成に向けた取組の過程はどうだったのか」「次年度に向けて、改善していくところはどこか」という振り返りも行っています。振り返りにあたっては、子どもたちの姿や声はもちろん、3学期始めに行った「みなみアンケート」の結果も手がかりの一つとしています。



この「学校評価特集号」では、わたしたちの振り返りと「みなみアンケート」の結果を、保護者の皆様にお伝えします。

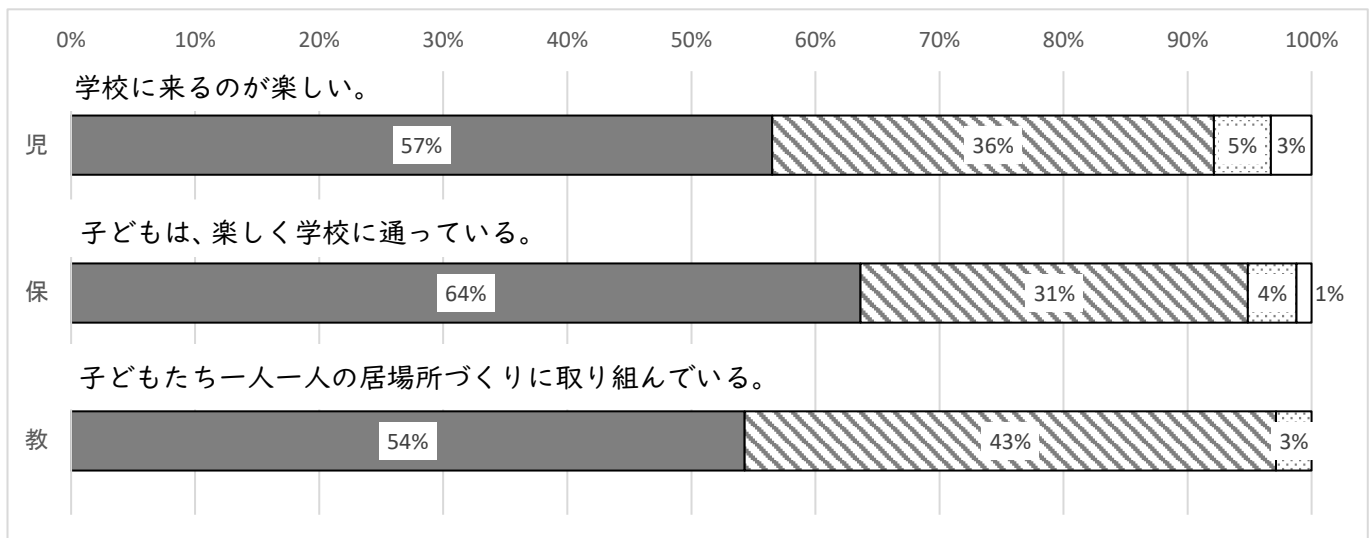
次年度に向けて、取組にもまだまだ改善の余地があります。よかったところも課題も含めて、保護者や地域の皆様と共有することで、よりよい学校づくりにつなげていきたいと考えています。どうぞ、よろしく願いいたします。

これに先立ち、2/4（水）には、学校運営協議会理事会で、振り返りの内容をお伝えし、理事の皆様からご意見や支援策をいただきました。ご紹介します。

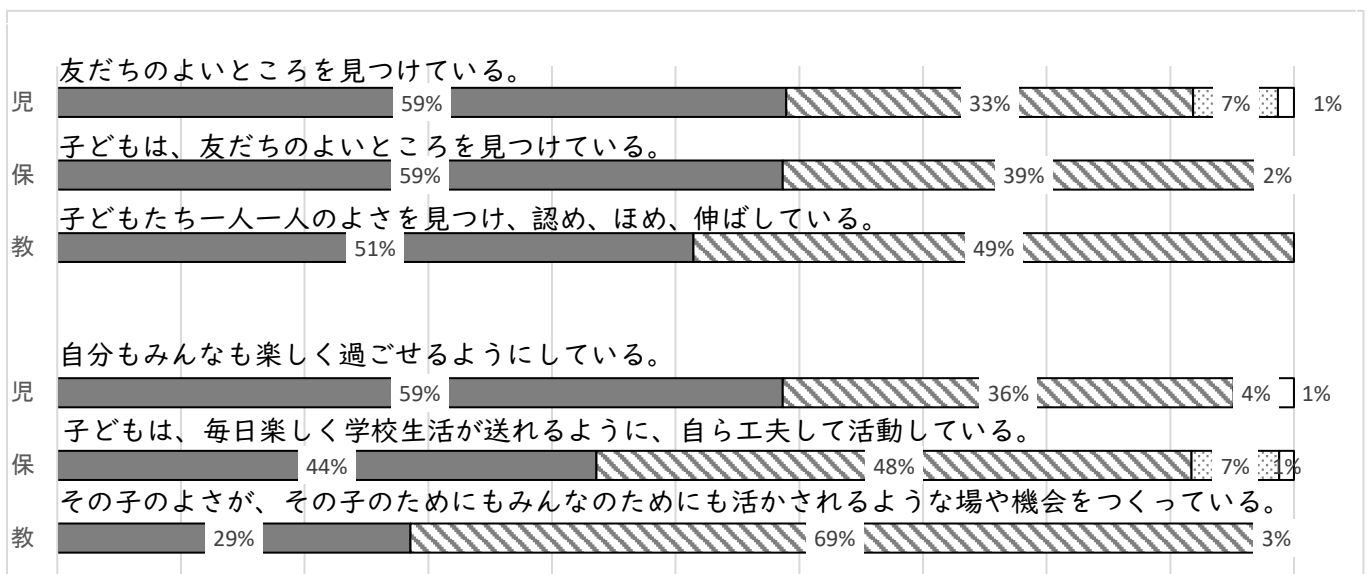
- ◇ 動きながら学ぶ体験的な学習はとても重要で、学習の楽しさが子どもの学びの充実につながっていると思う。一人一人興味関心や、学力も違う子どもたちに対して、それぞれの思いや願いに沿った学習が重要である。今年度行われていた学習方法は、それを実現できていたのではないだろうか。
- ◇ 児童館では、低学年の子どもを中心に学校で学んだことを嬉しそうに語る姿が見られる。学校での学びが、実生活に結びついているなど感じる。
- ◇ 朝食に関する項目があったが、食べることは体の基礎を作る最も大切なことだと思うので、このアンケートをきっかけに自分を見直すきっかけになればよいと思う。また、項目には、「しっかり」という言葉が使われているが、保護者によってその捉え方が異なる可能性もあると思う。何が大切か学校としても発信していく必要があると思う。
- ◇ 学校の先生は人を育てる仕事。世間的には、子どもは減り、大人が増えている状況なのに教員の時間外勤務や負担感が変わらないのは問題。岩倉は多様性を受け入れ、心優しく誰でも包み込む地域である。学校、保護者、地域がより手を取り合って、余裕をもち子どもたちに接していけるようになればよいと思う。

～「思いやりたがいの良さを認め合う子」の育成に関して～

■ そう思う □ 大体そう思う □ あまりそう思わない □ そう思わない

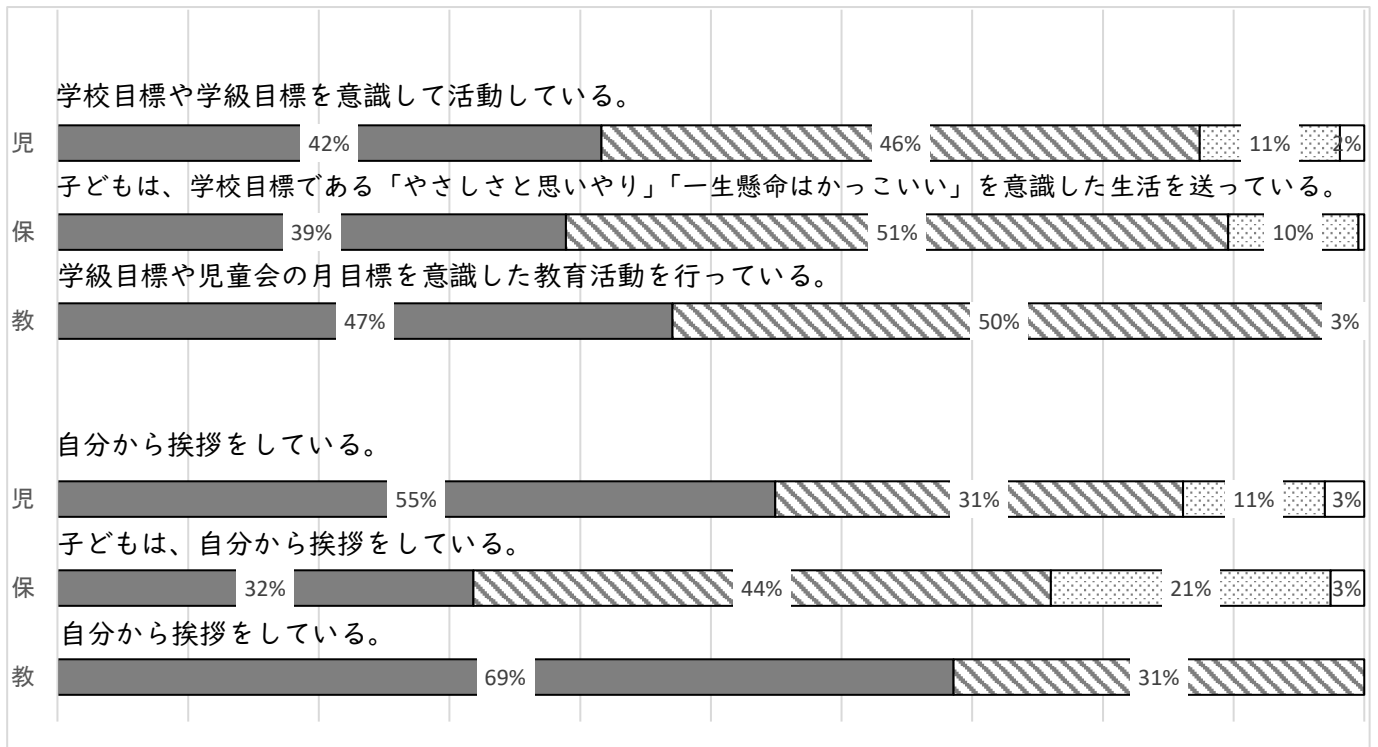


今回の学校評価アンケートでは、児童の約9割が「学校に来るのが楽しい」と答えており、子どもたちが毎日を安心して過ごしている様子が伝わってきました。保護者の皆様も、9割以上の方が「子どもは楽しく通っている」と感じてくださっており、ご家庭でも前向きに受け止めていただけていることを嬉しく思います。学校では、日々の授業に加えて、様々な体験活動も行っています。また、休み時間や給食時間、掃除時間と1日の生活は多岐にわたります。そんなすべての活動を楽しいと思うのかどうかは、子どもたち自身です。どんな活動も前向きに取り組めるよう、学校でも声かけを続けていきたいと思ひます。



子どもたちが日々の学校生活の中で友だちのよいところに気づき、認め合おうとする姿が多く見られることが分かりました。特に児童の「友だちのよさを見つけている」という回答が約6割を占め、学級の中で互いを大切にしている関係が育っていることがうかがえます。また、「自分もみんなも楽しく過ごせるように工夫している」と答えた児童も多く、学校生活をよりよくしようとする前向きな姿勢が感じられます。

一方で、保護者の皆さまの回答には中間の選択肢が多く、子どもたちのがんばりや活動の様子が十分に伝わっていない可能性も見えてきました。教職員は、子ども一人一人のよさを見つけ伸ばすこと、そしてそのよさが自分自身や友だちのために活かされる場や機会をつくることを大切にしています。今回の結果から、学校のねらいや子どもたちの取組を、これまで以上に分かりやすく発信していくことの必要性を改めて感じています。



学校目標の意識について、児童の多くが「やさしさと思いやり」「一生懸命はかっこいい」といった学校のめざす姿を意識しながら生活していることが分かりました。保護者の皆さまからも、家庭での子どもの言動や様子を通して、こうした目標に沿った成長を感じているとの声が多く寄せられています。教職員も日々の学習や生活指導の中で、児童会目標や学級目標を基盤とした指導を行っており、学校全体として「めざす姿」を共有して取り組んでいることが示されました。学校・家庭・子どもが、同じ方向を向いて歩んでいることが確認できたのは大きな成果です。

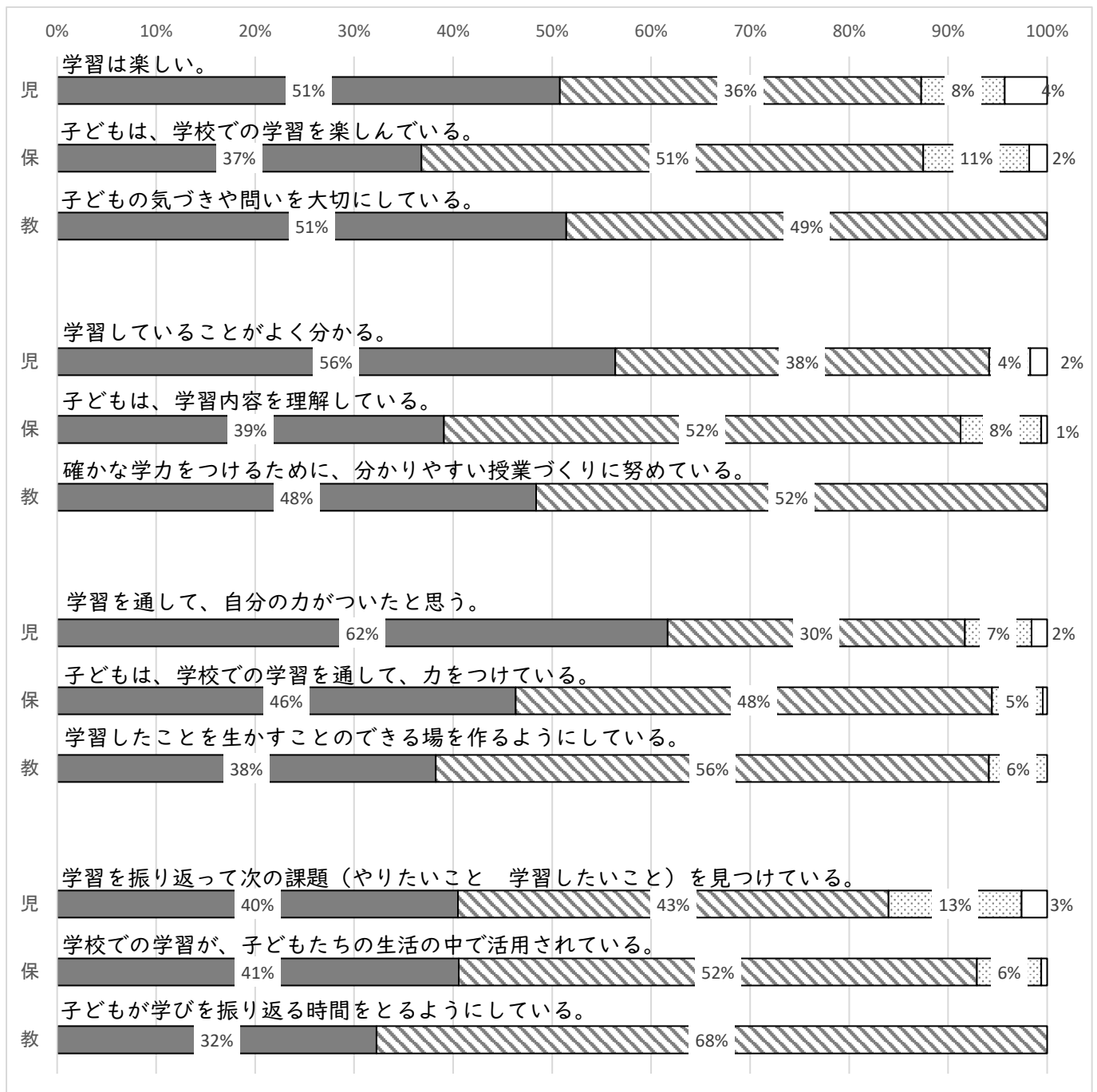
子どもたちは学校目標を意識しながら、毎日の生活の中で自分から行動しようとする力を伸ばしていることも分かりました。わたしたち教職員も、子どもたちの小さな成長を見逃さず、よりよい姿を引き出せる環境づくりを続けていきます。また、活動の様子や子どもたちの変化が家庭でもより分かるよう、学年通信や学校だよりで積極的に紹介していきます。

ご家庭でも、日常のちょっとした言葉かけを通して学校の取組とつながる温かいサポートをいただければ、子どもたちの成長はさらに豊かになると思います。

挨拶の項目では、児童の約半数以上が「自分から挨拶している」と答えており、学年を問わず明るい挨拶が広がってきています。教職員もまずは自分から挨拶をする姿勢を大切にしており、学校全体として“挨拶が自然と生まれる雰囲気”が育ちつつあることが分かりました。保護者の皆さまの回答を見ると、学校での挨拶の様子が十分に伝わっていない部分もあるようです。時と場に応じて、こういった挨拶をすればよいのか、また挨拶の意味についても少しずつ伝えていきたいと思っています。

～「自分で考え行動する子」の育成に関して～

■ そう思う ▨ 大体そう思う □ あまりそう思わない □ そう思わない

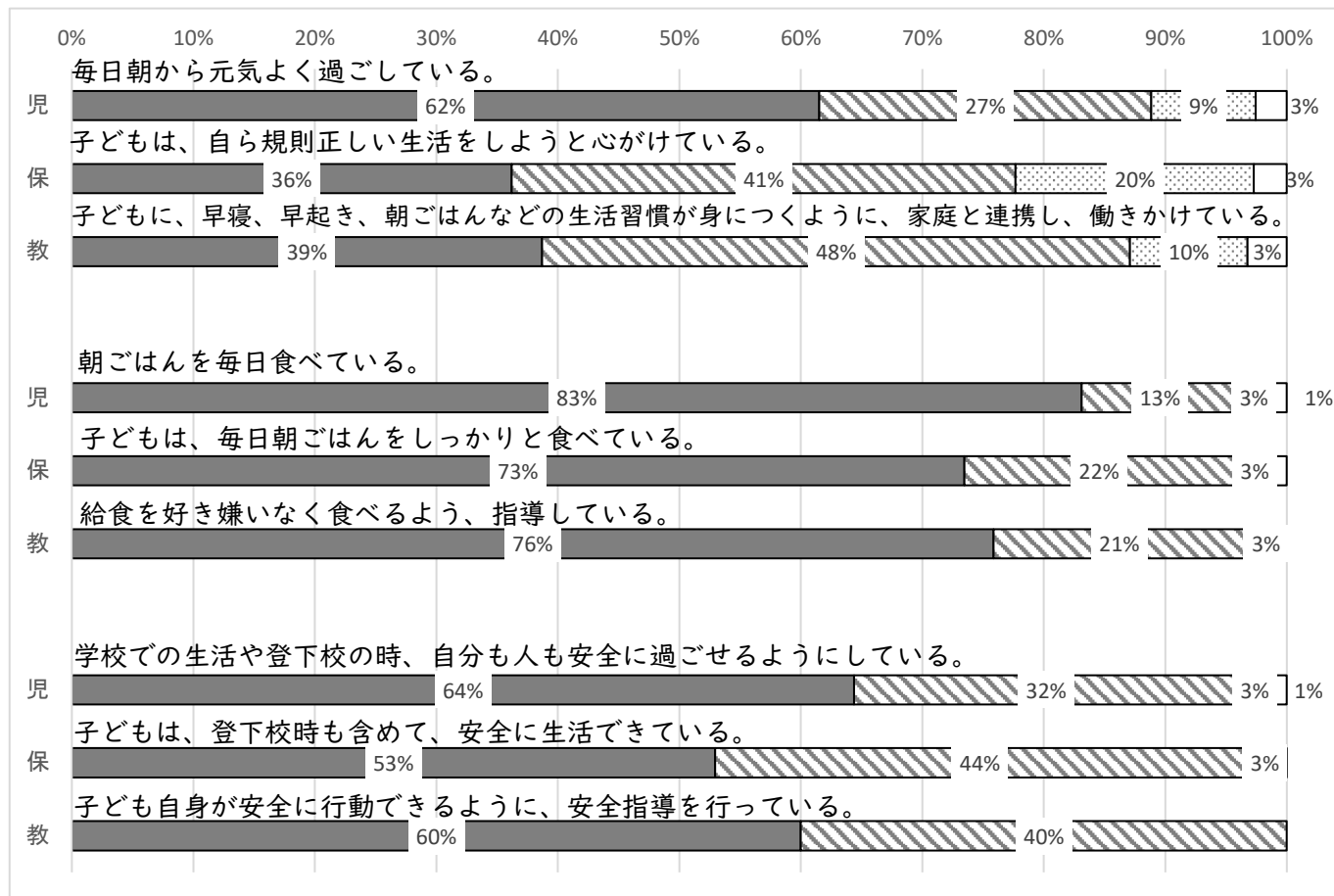


今年度は、学習の中に子どもたち自らが選択・決定する場を作る、振り返りを大切にし、その振り返りから次に繋がる活動を生み出せるようにすることを目標に取組を進めてきました。1学期に教職員で共通理解し、2学期には学年ごとに授業を通じた実践をし、3学期にはその総まとめとして研究発表会を行いました。研究発表会の参観者からは、子どもたちの主体性が育ってきている、選択・決定できる場が子どもたちの考える力を伸ばすことに繋がっている、自ら学ぼうとする姿勢が見られ、自然と友だち同士かわり合いながら学習を進めることができているという声をいただきました。授業公開をしたのは、1時間だけですが、その時間の中だけでも子どもたちの成長が表れていたようです。

ただ、アンケート結果からは、すべての子どもが学習に楽しみながら取り組んでいるわけではありませんし、振り返りを次の学習に繋がられていない子どもも一定数いることが見て取れました。一人一人に合った学びを実現するには、どうすればよいのかをこれから学校としても考え続けていきます。保護者の皆様も学習内容はもちろんのこと、学習方法や学習形態についてもご家庭で話題にさせていただけるとありがたいです。

～「自分で考え、行動する子」（体を大切にしている子）の育成に関して～

■ そう思う □ 大体そう思う □ あまりそう思わない □ そう思わない



朝の過ごし方では、多くの児童が「毎朝元気に過ごしている」と回答しており、学校生活のよいスタートを切れていることが分かりました。保護者の皆さまからも、子どもが規則正しい生活を送ろうと意識している様子が見られるとの回答が多く、家庭での温かい見守りと声かけが生活リズムの安定につながっていることが感じられました。

また、「朝ごはんを毎日食べている」という項目では、児童の8割以上が肯定的に回答し、ほとんどの子どもが朝食をとって一日を始めていることが分かりました。保護者の皆さまの協力によって朝食習慣が良好に保たれていることに、学校としてもありがたく感じています。教職員も、給食指導を通して食への関心を高める取組を進めており、家庭と学校がともに「食の大切さ」を伝えていく姿勢が確認できました。

さらに、安全に関する項目では、児童・保護者・教職員のいずれの立場からも「自分や周りの安全に気をつけて行動している」という意識が高いことが示されました。登下校を含む日常の場面で、自分自身の安全だけでなく、友だちや地域の方への配慮も育ちつつあることは、学校として非常に心強い点です。ただ、登下校中に危ない行動をしている、横断歩道のない通りを渡っているなど、危険な行為がまだあることも耳にします。また校内においても、廊下歩行や、コンクリートの上で遊ばないことなど課題はまだあります。

そこで生活しているすべての人が安全に、そして安心して過ごせるということは、学校教育目標である「やさしさと思いやり」に通じる部分です。すべての教育活動を通して「やさしさと思いやり」「一生懸命はかっこいい」姿を実現できるよう今後も教育活動を進めていきたいと思います。